

22年10月29日

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

事業名：地場産の花を理解する農業理解促進事業「花育」

意見交換の主な内容	・イベントの企画・立案 ・日程調整、人員配置確認 ・事業計画の見直し作業。 ・各部会との連絡調整	
	団体名：花育ボランティア「花伝道師」	事業担当課名： 農水産課
事業を実施してみて、良かった点・成果	・子供たちとのふれあいを通じて元気をもらった。 ・多少なりとも道行く人に楽しんでもらえたのでは。 ・市民の方に花を通して楽しみが生まれた	・幼稚園・保育園での花育は評判が良く、既に来年度の依頼もきていることから、子供たちに喜んでもらえる活動であったのではないかな。 ・花の魅力を伝え方について、様々な視点からアイデアが生まれ、今後の農業理解促進に取り込めるのではないかな。
事業を実施したうえで、気づいた課題	・事業実施の際、スケジュールリングに苦労した。 ① 幼稚園の花育が他の幼稚園と日程が重なる、詰まる。 ② 植栽体験では花の提供が決まらなかった	・花き生産者との連携が事業の大前提であるが、意見の集約や、事業実施のサポート体制など一部不十分な点があった。
改善した場合の内容	スケジュールが無理なくするために、事業内容の簡素化の検討。	生産者との意見交換の場を現状より多く設ける。また、生産者全体に事業内容の報告を行う。
その他気づいた点	保育園・幼稚園の花育で園を訪問する際、お茶のサービスをいただいているが、辞退してもいいのでは。	事業目的に合致する花育ボランティア、花き生産者以外の団体との連携や事業協力ができるかどうか。
今年度事業終了後の方向性	①、今後も双方で実施 ②、団体が単独で実施 ③、行政が単独で実施 ④、事業は今年度で終了 ⑤、その他 ()	①、今後も双方で実施 ②、団体が単独で実施 ③、行政が単独で実施 ④、事業は今年度で終了 ⑤、その他 ()

※現段階で可能な項目のみ記入してください。

22 年 10 月 29 日

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

事業名： 平塚市防災フォーラム開催事業

意見交換 の主な内 容	防災フォーラムに向けてのテーマの確認、講師・パネリストの選定に関しての共通認識の形成と、今後のスケジュールについて。	
	団体名：平塚防災まちづくりの会	事業担当課名：防災危機管理課
事業を 実施して みて、良 かった 点・成 果	アンケート回答数は168、「比較的順調に防災対策が進んでいる」と答えた地域は37など興味深い結果が見られた。主としてアンケートからの希望者を対象とした防災懇談会では「他自治会の悩み工夫などがわかった」等の声が聞けた。こうした結果をフォーラムに活かしたい。	全自治会を対象としたアンケート、自治会役員が集まった懇談会等では、自主防災組織運営に共通した課題、悩みを改めて確認でき、フォーラムへ進む方向性が見えてきた。
事業を 実施した うえで、 気づい た課題	行政・団体は組織も仕事の方法にも違いがある為、密な連絡調整が必要。団体のスケジュール管理にも工夫を加えたい。 懇談会は案内通知発送がひと月を切る等の状況であった為、返信葉書には「予定が重なり残念」との声が多数みられた。 協働事業継続により、22 年度事業を進めながら 21 年度報告・23 年度申請を行うことになり、結果として相当の労力を割かれることになった。	自治会への周知、資料の作成が、直前になってしまうことが多く、事前準備が手間取ってしまい、多数の参加者が得られなかった。
改善した 場合の内 容	・(案)事業開始以前におおまかな年間スケジュールを作成し、行政・団体が共有する。	団体側と、予定表を共有し、作業に遅れがでないように努める。
その他 気づいた 点	団体・行政の間に信頼関係が生まれ、協議等の際にも、本音での意見を交わせるようになってきた。	
今年度 事業終了 後の方向 性	1、今後も双方で実施 2、団体が単独で実施 3、行政が単独で実施 4、事業は今年度で終了 ⑤、その他 (一部事業は市民提案型として次年度も継続)	1、今後も双方で実施 2、団体が単独で実施 3、行政が単独で実施 4、事業は今年度で終了 ⑤、その他 (一部事業は次年度も継続)

※現段階で可能な項目のみ記入してください。

22年10月26日

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

事業名：男女共同参画推進紙芝居製作及び啓発事業

意見交換の主な内容	協働事業を実施して、良かった点や課題について意見交換を行った。男女共同参画の推進というテーマを子どもたちに面白く伝えることは難しいことだったが、団体と行政が脚本を練り上げる際に、双方の思いをその都度協議しながら作り上げることで、作品を製作することができた。啓発事業としては、製作した作品を保育園や幼稚園での上演をすることで、子どもたちが良く見て理解しようとしてくれ、また先生方にも楽しく男女共同参画を理解してもらうことができてよかった。	
	団体名：平塚てづくり紙芝居の会	事業担当課名：人権・男女共同参画課
事業を実施してみて、良かった点・成果	子供たちが良く見て理解しようとしてくれたこと。 テーマ・時間の制約の中でできる最大限の知恵を絞り製作したので満足感がある。 男女参画という難しいテーマでの紙芝居に挑戦して作品を作れたこと。面白くするのは至難の業だった。	子どもたちに対して分かりやすく、かつ啓発効果のある作品を作ることができた。 実演において、子どもたちや先生方にも楽しく男女共同参画を理解してもらうことができた。
事業を実施したうえで、気づいた課題	良い紙芝居とは何か（ストーリー）にこだわるあまり、インパクトが少ない作品になってしまった。 昨年度と同じ職業選択のテーマになり、二度はしつこい、同時に上演するのは効果的でないと感じた。	紙芝居を製作するなかで、登場人物などを決定する際に、人権配慮の視点から検討した結果、団体から出た脚本案を制約する形となった。
改善した場合の内容	男女参画への思いがなくて、ただ台詞を読むだけでは子供たちは聴いてくれないだろう。男女参画を伝える資格があるのかという限界を感じた。行政の方が話を聞いてくれたので救われた。	趣旨説明をして、理解をしていただいた。 団体と行政が脚本案を練り上げる際に、その都度協議しながら作り上げていった。
その他気づいた点	人を“啓蒙”するにはまずおのれがその思いになる必要がある。 思いのある人が製作した紙芝居（市販）をもっと利用すれば良かった。	考えや立場の違いを理解するためには、その都度話し合いの場を持つことが協働事業には不可欠である。
今年度事業終了後の方向性	1、今後も双方で実施 2、団体が単独で実施 3、行政が単独で実施 4、事業は今年度で終了 ⑤、その他 （内容を変更し継続して実施）	1、今後も双方で実施 2、団体が単独で実施 3、行政が単独で実施 4、事業は今年度で終了 ⑤、その他 （内容を変更し継続して実施）

※現段階で可能な項目のみ記入してください。

22 年 10 月 29 日

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

事業名： こころと命のサポート事業

意見交換 の主な内 容	22 年度事業内容について現時点でのふりかえり	
	団体名：浜岳中学校区子ども読書 活動推進協議会	事業担当課名：くらし安全課
事業を 実施して みて、良 かった点・ 成果	- 各ボランティアの意識向上 読み聞かせの意義について共通理 解を確認することができた。 - 読み聞かせにリストの本を採用する こと、各校ブックフェア、落語広報 の過程で地域に着実に発信できて いる。	「いのちの尊さを伝える本」のリスト づくりや、ボランティアの皆さん、児童 へのリスト配布を通じて、家庭、地域へ 取組みが広がった。
事業を 実施した うえで、 気づ いた課題	他中学校区の協議会への発信	現在取り組んでいることを、他の地区 の協議会へ広げていくための PR 方法 の工夫
改善した 場合の内 容	落語会を 2 回公演にし、他中学校区 へも広報、ひろく全市に参加者募集 ができるようにした。	- 代表者会議で紹介（いのちの尊さを伝 える本のリスト、落語会） - ホームページへの掲載（取組みの紹介） - 落語会のポスター掲示による周知
その他 気づいた 点	現時点では特になし	特になし
今年度 事業終了 後の方向 性	①、今後も双方で実施 ②、団体が単独で実施 ③、行政が単独で実施 ④、事業は今年度で終了 ⑤、その他 ()	①、今後も双方で実施 ②、団体が単独で実施 ③、行政が単独で実施 ④、事業は今年度で終了 ⑤、その他 ()

※現段階で可能な項目のみ記入してください。

22年10月21日

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

事業名： 花のある景観づくり事業

意見交換の主な内容	・委託内容の確認 ・事業スケジュール ・経費の執行計画 ・研修会（案）について	
	団体名：明日の金田を創る会	事業担当課名：農水産課
事業を実施してみて、良かった点・成果	・会の活動や意向を行政等の広報を通して広く知ってもらうことができ、活動に共感した人（会員）が徐々に増えていること。	・行政と比べて、柔軟性や迅速性があり、専門性を持った会員もいるので、事業を円滑に推進できる点。
事業を実施したうえで、気づいた課題	・メンバーによって、草花に対する知識・技術に大きな差があり、今後、改善したいこと。	・「明日の金田を創る会」の活動場所と農水産課の事務所が離れているため、現場確認や情報提供・意見交換をする等、継続的な関係を築くことが課題。
改善した場合の内容	・今年度中に、ボランティアを含めた勉強会を開催し、知識・技術力の向上を図る。	・現場確認を随時行ったり、情報提供・意見交換等を積極的に行っている。
その他気づいた点	・今後とも農水産課と密接な関係を保ちつつ、事業を推進していきたい。	・昨年に引き続き、きちんとした役割分担の上で、事業を推進できている。今後も良好な関係を保ちつつ、事業を推進していきたい。
今年度事業終了後の方向性	①、今後も双方で実施 2、団体が単独で実施 3、行政が単独で実施 4、事業は今年度で終了 5、その他 ()	①、今後も双方で実施 2、団体が単独で実施 3、行政が単独で実施 4、事業は今年度で終了 5、その他 ()

※現段階で可能な項目のみ記入してください